

2019年規則の主な変更点

2019年1月1日から新しいゴルフ規則が施行されます。この新しいゴルフ規則はより分かりやすく、簡単に、不要な罰をなくし、プレーのペースに役に立つよう、様々な観点から従来の規則を抜本的に見直したものです。

【5つのコースエリア】

コースは5つのコースエリアに分けられ、その名称が変わるものがあります。

ティーインググラウンド	⇒	ティーイングエリア
スルーザグリーン	⇒	ジェネラルエリア
バンカー	⇒	バンカー（変わらず）
ウォーターハザード	⇒	ペナルティーエリア
パッティンググリーン	⇒	パッティンググリーン（変わらず）

【球の搜索時間が3分になります。】

球の搜索時間が5分から3分に短縮されます。

球が3分以内に見つからないか、またはプレーヤーが自分の球であると確認できないとき、球は「紛失」したものとみなされる。

球が紛失となった場合1罰打を加え直前のストロークを行ったところから別の球をプレーする。

【距離計測器の使用が認められます。】

距離計測器の使用が認められ、2点間の距離を計測することができます。しかし、高低差、風向きなど、他のプレーに影響する要素を計測することはできません。

※ローカルルールで距離計測器の使用を禁止することができます。

【ドロップに関するルールが変更になります。】

現在の規則は肩の高さからドロップしますが、新しい規則では膝の高さからドロップすることになります。

- ・正しい方法でドロップした球が地面に落ちた後で止まる前に、人、用具または他の外的影響に触れたかどうかに関係（故意を除く）なく球が救済エリアに止まった場合、プレーヤーは救済を完了したことになりその球をあるがままにプレーしなければなりません。
- ・正しい方法でドロップした球（2回目）が救済エリアの外に止まった場合、最初に地面に触った箇所（スプレッド）に球をプレースしなければなりません。プレースした球がその箇所（スプレッド）に止まらない場合はプレーヤーはその箇所（スプレッド）に2回目のプレースをしなければなりません。



ジェネラルエリア

ジェネラルエリアとは

コース全体から他の4つの定義されたエリア（現にプレーしているティーイングエリア・すべてのバンカー・すべてのペナルティーエリア・現にプレーしているパッティンググリーン）を除いたコースエリア。

【スタンスをとった後、キャディーを後方に立たせることはできません。】

新しい規則ではプレーヤーがスタンスをとった後にキャディーを後方に立たせることを禁止しています。ストロークを行う前にキャディーがその場所を離れたとしても一般の罰（ストロークプレーでは2罰打）を受けることとなります。



【ストロークした球が自分に当たっても罰はありません。】

ストロークした球が偶然にプレーヤー自身に当たってしまった、または自分のキャディーや用具に当たってしまったとしても罰はありません。球はあるがままにプレーします。

※2度打ちしても罰はありません。

【救済を受けるときにマーカーに告げる必要はありません。】

現在の規則では、救済処置をする場合にマーカーに告げることを求めているものがありますが、もうその必要はありません。暫定球をプレーする場合は、これまで通り、「暫定球をプレーします」と告げなければなりません。プレーヤーが（暫定球をプレーする意思があったとしても）それを宣言せずに直前のストロークを行った場所から球をプレーした場合1罰打のもとにそのプレーヤーのインプレーの球となります。

【救済を受けるときは、いつでも球を取り替えることができます。】

現在の規則では罰なしの救済（例えばカート道路からの救済）では球を取り替えることはできません。新しい規則では、罰あり、罰なしに関係なく救済規則に基づいて拾い上げた球は別の球に取り替えることができます。

【救済エリアを計測するクラブ】

1クラブレンジスや2クラブレンジスの救済エリアを計測する場合に使用するクラブは、プレーヤーがそのラウンドのために持ち運んでいる最も長いクラブ（パターを除く）となります。したがって状況によってクラブレンジスを計測するクラブを変えることはできません。

【球を動かしたことの罰の免除】

新しい規則では次の場合に球を動かしたことの罰が免除されます。（リプレース）

- ・球を探しているときに自分の球を動かした場合
- ・規則に基づいて球をマークする、拾い上げる、リプレースする時に球を動かしてしまった場合

バンカー及びペナルティーエリア

ペナルティーエリアとは

現在のウォーターハザードは水域だけを設定できますが、新しいペナルティーは水域だけでなく、委員会が1打の罰で救済を認めたい区域に設定することができます。例えばブッシュや崖、球を見つけることや打つことが困難な雑木林などをペナルティーエリアとして設定することができます。救済処置は原則として現在のラテラル・ウォーターハザードと同様ですが、対岸の処置を使うことはできません。

【バンカーのルースインペディメントを取り除くことができます。】

球がバンカー内にある場合、ルースインペディメント(木の葉、石などの自然物)を罰なしに取り除くことができるようになります。ルースインペディメントを取り除いたことが自分の球を動かす原因となった場合1罰打を受けます。



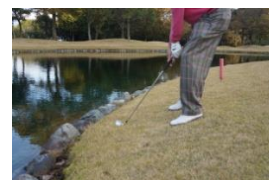
【バンカーで2罰打を加えたら、バンカー外にドロップできます。】

バンカーに球があるときに、アンプレヤブルの追加の選択肢として、2打の罰を加えれば、球とホールを結ぶ線上でそのバンカーの後方の外側にドロップすることができます。



【ペナルティーエリアではクラブを地面につけることができます。】

ペナルティーエリアの球をあるがままにプレーする場合、クラブを地面につけることができますし、ルースインペディメントを取り除くこともできます。つまり、ジェネラルエリアと同じ規則でプレーすることができます。



パッティンググリーン

【キャディーはパッティンググリーンの球をマークして拾い上げることができます。】

現在の規則では、キャディーであってもプレーヤーの球を拾い上げる場合はその都度承認が必要です。新しい規則では、パッティンググリーンの球に限っては、キャディーがプレーヤーの承認を得なくてもマークして拾い上げることができます。

リプレイスは拾った本人またはプレーヤーに限ります



【旗竿を立てたままパットすることができます。】

パッティンググリーンからパットするときに旗竿を立てたままパットすることができます。もしパットした球がホールに立てられているその旗竿に当たっても罰はなく、球はあるがままにプレーします。(ホールインが認められる)



【パッティンググリーン上のプレーの線に触れただけでは罰はありません。】

パットをするときにそのプレーの線上のグリーン面に触れただけでは罰はありません。例えば、キャディーがねらい目を指で触ることも違反ではありません。ただし、改善をしたという事実があれば罰(ストロークプレーでは2罰打)を受けることとなります。



【パッティンググリーン上の損傷箇所を修復できます。】

パッティンググリーンの損傷箇所(人、動物、乗り物などによって作られたもの)を修復することができます。例えば、プレーの線上にあるスパイクマークを修理することができます。ただし、自然に窪んでいるところを平にすることはできません。

【球を動かしたことの罰の免除】

新しい規則では次の場合に球を動かしたことの罰が免除されます。(リプレイス)

- ・パッティンググリーン上で偶然に球を動かした場合
- ・規則に基づいて球をマークする、拾い上げる、リプレイスする時に球を動かしてしまった場合